

○ 10月30日(水)

府立学校スクールミーティング(城陽支援学校)



○ 畑 委員長

城陽支援学校を訪問し、見学する機会を得ました。南京都病院に隣接する立地を生かし、教育活動の充実を図る重心教育部、梅で知られた青谷の豊かな自然の中で、病院、家庭と協力して学習と治療の両立を目指す病弱教育部、そして、近い将来の自立と社会参加を目標に実践的に学ぶ通学高等部。この三つの教育課程それぞれに学ぶ児童生徒の笑顔に大きな力をいただきました。体育館でロープに登る病弱教育部の生徒の姿に驚かされましたが、最も感激したのは通学高等部での一人の男子生徒の姿でした。彼は縫製の授業でミシン掛けをしていたのですが、見学者の私に説明を続けられる先生に「お話中失礼します！先生、できましたので見ていただけますか？」と、しっかりした声で割り込んできたのです。その美しい言葉使い、大きな声。それはそれは気持ちの良いものでした。このような挨拶のできる青年に出会ったことがとても新鮮でした。これからも一人一人の力量に応じた学びの機会を大切に応援したいと願う一日でした。毛玉ひとつ落ちていない掃除の行き届いた校内の様子に、学ぶものがたくさんありました。



○ 冷泉 委員

卒業後の就職を目指して学習している通学高等部の生徒の様子がよく理解できました。とても丁寧な作業の訓練が、将来の仕事に役立つことを願ってやみません。

作品の販売などを通して、地域の方々との密接な交流もあるようで、地域の方々の支援も嬉しく思いました。

一方、遠距離通学の生徒も多いようなので、通学上の安全が心配です。

南京都病院に入院しながら通学している生徒の皆さんにも会えてよかったと思っています。

○ 10月30日(水)

府立学校スクールミーティング(城陽支援学校)

○ 平塚 委員



自立と社会参加を目指した3つの教育目標の実現のために、「重心教育部」「病弱教育部」「通学高等部」3つの教育課程を設置することで、それぞれの特徴を活かした教育のもと、児童生徒が一生懸命授業や実習に取り組んでいる姿に感銘を受けました。また、各種サポート体制も充実しており、今後、児童生徒が成長する過程において、非常に大切な時間を過ごしていると感じました。

○ 安藤 委員



通学高等部で自立活動や職業教育の授業を拝見いたしました。大きな声での挨拶、言葉遣い、通学から掃除に至るすべてに、生徒が意欲をもって一生懸命取り組んでいる姿に大変感心いたしました。作業学習でも、教室を職場と見立て丁寧に・正確に・時間内にと、集中力や作業効率などを常に意識し、仕事に対する基本姿勢や身のこなしがしっかりと習慣づいているのが伝わってきました。

生徒との懇談の中でも、卒業後の進路にそれぞれ目標をもってることや、部活動や生徒会活動にも励み、積極的にコミュニケーションを図るなど、学校生活の充実と将来への希望に満ち溢れた生徒の表情がとても印象的でした。

また、生徒に興味を持たせたり、将来に希望が持てるよう、個々の特性に応じた実に細やかな指導や、作業能力を向上させるための工夫など、教員たちのチームワークもしっかり発揮されているように感じました。

どの特別支援学校も進路指導の大変さはあるかと思いますが、安定した就労先を確保するのはなかなか難しいのが現状だと思います。就職後も「働く喜び」や「意欲」を失わないよう、企業と連携したアフターフォローは本当に心強く思いました。今後も生徒が安心して生活を送ることができる就労をめざし、外部機関の理解を深め就労支援や指導を充実させていって欲しいと思っています。